いずみ巣子ニュータウン自治会

いずみ巣子ニュータウンは南一本木自治会の中の団地会として誕生し、平成 11 年に自治会として分離独立した地域。そのため現在も一本木地区の自治会と共同で行う行事が残っている。

親睦行事

運動会は一本木地区の３自治会合同で開催。実行委員会は１年ごとの持ち回り制となっている。参加率の減少等から運動会は令和３年で終了としたが、地域のつながりを保つためにも代わりとなる親睦活動を検討している。

北部コミセン祭りも運動会同様、実行委員会は３自治会持ち回り制で行っている。一本木地区で一番盛り上がる行事ということもあり、出店で出す料理の味も前年担当の自治会に負けまいと気合が入る。

夏祭りは恒例行事として単会で行っている。焼きそば等の食べ物の担当、ビール等の飲み物の担当等、各班で分担して出店を出す。班によっては中学生が販売を手伝っている。その他、カラオケ大会やイワナのつかみ取り、大人は利き酒など全世代が楽しめる企画で親睦を深めている。

毎年少しずつ世帯が増えており、新規住民は 20～30 代の若い子育て世代が多い。また、一本木地区の小学生もほとんどが同自治会にいることから、自治会活動に子どもたちや若い共働き世代の意見も取り入れたいと考えている。

夏祭り

地域のための活動

環境美化に力を入れており、コロナ禍でも継続していかなければならない活動と考えている。分譲地が豊富にある地域のため、いずみ巣子ニュータウンに住みたいと思ってもらえるよう、住宅を販売する業者だけでなく、地域のみんなで綺麗な団地を維持し、新規住民を歓迎していきたいという気持ちで取り組んでおり、コロナ禍以前は中学生も草刈りに参加していた。

交通安全については、一本木地区防犯交通安全協会の一員として活動しており、自治会では２台の青色回転灯パトロールを行っている。

コロナ禍の工夫

感染症防止のため、役員会を行わない代わりに、地域のお知らせは毎月班長に文書を配布している。顔を合わせられなくても自治会全体での情報共有は怠らず、つながりを保っている。

左から吉田耕一氏(元自治会長)、佐藤悦夫氏(自治会長)、細川秀男氏(元自治会長)、取材時撮影

今後の展望

現在の集会所は団地から道路を隔てて建っており、老朽化も著しくなってきたため、高齢者や子どもが集まるのにリスクを感じている。将来的に団地内のアクセスしやすい土地に集会所を新設できるよう、少しずつ積み立てをしている。高齢者が軽く運動ができ、子どもたちが学校帰りにちょっと寄れるような環境をつくり、気軽にコミュニケーションがとれる場の形成を目指している。